

令和5年度第2回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（美術部会）

令和6年2月15日（木）

東京都江戸東京博物館 リニューアル準備室会議室

午後 3 時 01 分開会

中村文化行政専門課長：本日はお忙しい中御出席いただきまして、ありがとうございます。

ただいまから令和 5 年度第 2 回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料評価部会美術部会を開催いたします。

私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化行政専門課長の中村と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを付議する部会、また、評価部会は江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に評価いただく部会です。

本日の評価部会に先立ちまして 2 月 5 日に収集部会を開催し、当部会でお諮りする案件につきましては、当館へ収蔵することが適切であるという御意見をいただいております。

本日は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

次に、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。

私から向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

黒田委員でございます。

滝沢委員でございます。

沼田委員でございます。

なお、内藤委員と日野原委員につきましては、事前に御欠席との御連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

江戸東京博物館副館長の杉山でございます。

事業企画課長の新田でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

次に、お手元の資料の御確認をお願いいたします。

資料の一番上でございますのが会議次第、そして、資料 1 「収蔵委員会資料収集部会委員名簿」、資料 2 「収蔵委員会設置要綱」、資料 3 「令和 5 年度第 2 回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」、資料 4 「令和 5 年度第 2 回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）」、「令和 5 年度第 2 回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）評価票」をお配りしております。

お手元の資料で何か不足等ございませんでしょうか。

お手元の資料につきましては、現時点で未公開の情報がございますので、会議終了後、回収させていただきます。

議事に入る前に、当部会の公開について説明いたします。

本日の議事は、評価対象資料の価格評価に関するものですので、東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱第 11 に基づき、非公開といたします。

なお、当部会の議事録については、資料収集決定の後、委員の皆様のご個別の価格評価を除き、公開を予定しております。公開に当たって、委員の皆様には追って内容の確認をさせていただきます。また、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上にて公開しております。

それでは、議事に入りたいと思います。

江戸東京博物館事業企画課長の新田より、本日皆様に評価いただく資料の説明をいたします。

よろしくお願ひいたします。

新田事業企画課長：それでは、今回御評価いただく資料について御説明をいたします。

A3の資料3「令和5年度第2回資料収蔵委員会資料評価部会（美術部会）説明資料」を御覧ください。

まず、1件目の資料でございますが、「十三世守田勘弥のジャン・バルジャン」でございます。山村耕花による人気役者を描いた全12点シリーズの「梨園の華」のうちの1枚でございます。

耕花は品川の生まれで、初め尾形月耕に学んだ後、東京美術学校日本画科に入学し、卒業後は日本画家、挿絵画家として活躍をしました。

大正3年に、自身で版を彫り、摺る、自刻自摺の木版画を発表し、その後、大正5年には渡邊版画店から新版画の「片岡仁左衛門の大星由良之助」を刊行します。このときより、東洲斎写楽を意識した大首絵の様式を、大正9年から11年刊行の本シリーズでも用いました。役者の顔の特徴を捉えると共に、舞台上の緊張感を鮮明に描き出すことに成功しています。シリーズのうち、当館に2点の所蔵があり、今年度新たに6点を付議いたしました。

本資料は、大正9年12月の有楽座で上演された「哀史（レ・ミゼラブル）」において、勘弥演じるジャン・バルジャンが、ミリエル僧正の教会で盗みを働こうとする緊迫とした瞬間をとらえています。役者の鋭い眼差しと背景の描写が画面に恐怖と妖しさをもたらしています。ザラ摺りと呼ばれる背景の摺りは新版画の一つの特徴的な技法で、川瀬巴水や伊東深水の作品にも用いられました。

「梨園の華」の中で唯一、新劇に題材をとり、洋風の題材に伝統木版で挑戦する珍しい作例で、新版画の役者絵の系譜上、記憶にとどめるべき意欲作でございます。

2件目の作品は、「黒と白」でございます。

エリザベス・キースはスコットランドに生まれ、日本に滞在していた姉夫婦に会うため、大正4年来日しました。大正8年、新版画の版元の渡邊庄三郎と知り合い、制作に参画すると、以後、日本・中国・朝鮮半島・東南アジアを旅したスケッチを基に制作を続けました。大正8年から昭和13年頃までに、外国人画家としては最も多くの100点以上の新版画を刊行しました。

本資料には、京の町中へ花を行商する白川女と、花を買うモダンな浴衣姿の男性が画面中央に描かれます。男女の装いと、後ろのなまこ壁の色彩が黒と白にまとめられ、同じく

キースの作品に、藍と白色の組合せで日本の日常の光景を描いた「藍と白」が知られますが、これと対をなすものとして位置づけられます。キース自身の記録によれば、もともと全部で30枚ほどしか摺られず、国内の公立館での所蔵はなく、大変貴重な作品でございます。

新版画の制作に参画した外国人画家は、フリッツ・カペラリをはじめ、1930年頃までに10名ほどが確認できます。日本に伝統に囚われない新たな木版表現や主題を獲得した彼らの作品は、新版画を早期に海外へ発信することにも繋がりました。本資料は、東京発祥の新版画の国際性という側面を示す一例として重要です。

1、2、いずれも新版画を代表する作品であり、既収蔵の資料とあわせてさらなる調査研究に資することが見込めます。常設展示「市民文化と娯楽」ほか、近代美術や都市文化に関する特別展などにおいても活用できます。

付議案件についての御説明は以上でございます。

中村文化行政専門課長：ありがとうございました。御質問、御意見はございますでしょうか。

よろしければ、次に評価方法について御説明します。

評価票に金額を記載し、署名していただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額といたします。

評価方法について、何か御質問、御意見はございますでしょうか。

よろしければ、それではこれから資料の実見をお願いしたいと思いますので、係の者が御案内いたしますので移動のほうをお願いいたします。

また、資料に関する個別の御質問につきましては、学芸員へお尋ねいただきますよう、よろしくをお願いいたします。

それでは、よろしくをお願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

中村文化行政専門課長：それでは、議事を再開させていただきます。

資料を御覧になって、何か御意見、御質問等はございますでしょうか。

滝沢委員：山村耕花のほうの資料の御説明の中に、大正3年に版を彫って摺る自刻自摺の木版画を発表したという記述があるんですけども、ちょっと私、どの作品のことかよく分からなくて、もし、この作品がそうですよというものがあったら、後学のためにちょっと教えていただけますか。

新似顔とか、ああいう作品は彫り師、摺り師の力を借りて作った制作だと思うんですけども、その近辺で耕花が自刻自摺の木版画を作ったというのは、ちょっと私も記憶がなくて、もしかして、カボチャの白黒の作品かなとか思ったんですけど、もし何か分かったら教えていただければと。

新田事業企画課長：すみません、説明の資料を作る際に参考にしたものがあるかと思うのですが、後で改めてお伝えさせていただくという形でよろしいでしょうか。

滝沢委員：直接あんまりこの購入には関係ないかもしれないですけども、ちょっと気になったものですから。ありがとうございます。

中村文化行政専門課長：ほかに何か御質問等ございますでしょうか。

よろしければ、お手元の評価票に価格評価と、それから御署名をお願いしたいと思います。

ペンで御記入のほうをお願いいたします。

金額は税込みとなりますので、よろしくをお願いいたします。

(評価票記入)

中村文化行政専門課長：御記入がお済みになった方につきましては、係の者が確認いたしますので、お声がけください。

確認が終わりましたら、御退席していただいて結構でございます。

本日はありがとうございました。

午後 3 時 31 分閉会

以上